

西日本新聞

発行所
西日本新聞社
 福岡市中央区天神一丁目
 4番1号(〒810-8721)
 振替口座 01720-6-20
 ©西日本新聞社 2001年

7月2日
 (月曜日)

けさの紙面から



博多に夏 34



現場の経験を
 若者に伝える
 ひと
 2

畑山3度目防衛ならず 21
 漱石の運命を変えた男 34
 インドの少女救いたい 35

2,3	総合
4	アジア
5	国際
6	社説・意見
9	文化
11	読者文芸
13	県・国・食
16	小島・新刊
17	生活
21~23	スポーツ
25	まるごとTV
28~	地域版
34,35	社会

ホームページ <http://www.nishinippon.co.jp/>
 ご購読の申し込みは(運送送料) 0120-44-0120

ひと

一九四七年生まれの五十三歳。人から何と言われても自らの信条を貫く傾向が強い「団塊の世代」である。福岡市の西南学院大学を卒業後、三十一年間大阪と福岡のYMCA(キリスト教青年会)職員として活動してきた。その一徹者が「ボランティア国際年」の今年、飛んだ。

31年勤めたYMCAを辞め、国際ボランティアの現場に戻る
 すみ まさひこ
 角 正信さん



い歩み始めることにしました。穏やかな口ぶりに、意志の強さがにじむ。

「バンコクやマニラのスラム、大阪の目黒い労働者街・あいりん地区、軍政下のヒルマ(ミャンマー)、インドの最弱者・クリットの現場で培った経験を『多文化共生』を自提する若い人たちに伝えたい」

具体的には、福岡県のボランティア支援団体「県民ボランティアセンター」運営協議会委員長や国際協力団体の連合体「NGO福岡ネットワーク」副代表として、ボランティアを志す人たちがともに活動する。

大阪YMCA国際専門学
 校長時代に阪神・淡路大
 震災に遭遇。生徒たちと一
 緒に避難所への水運びや倒
 壊家屋の後片づけ、高齢者
 のご用聞きに走り回った。

その経験を生かして、五月
 の福岡県防災総合訓練では
 「不可触民」の村……。多く
 の現場で培った経験を『多
 文化共生』を自提する若い人
 たちに伝えたい。

「大震災は、さまざまな
 困難を共有しながら前向き
 に歩くことが、生きること
 の根源である」と私たちに教
 えてくれた」と言っ。趣味
 の尺八や合唱団活動も再開
 する。

団塊世代の、もう一つの
 人生が始まった。

(国際部・川崎隆生)